

視察報告書

委員会名	建設産業常任委員会					
視察日時	平成 28 年 10 月 28 日（金） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分					
視察先	市町村名	津山市	人口	103,190 人	面積	506.33 k m ²
視察項目	バイオマスタウン構想に関する調査					
視察参加議員	田原耕一、寺崎強、伊藤千代子、中村進、那須英仁、波多江貴士、藤井芳広					
視察随員職員	友岡卓也					

視察概要

津山市議会議長の歓迎の挨拶を受け、事前に送付していた質問事項等について津山市環境福祉部低炭素都市推進室よりご説明を受けたので、その質問項目ごとに説明内容を記載し報告とする。

1 点目はバイオマスへの取り組みを決断された経緯についてであるが、津山市は平成 17 年に周辺の 4 町村と合併により、市の面積が 18,573ha から 50,636ha へ森林面積は 9,707ha から 35425 ha（私有林：174ha から 2,642ha）と増大したこともあり、バイオマス資源の有効活用へとむかう事となった。また、平成 16 年の台風 23 号により莫大な風倒木被害で新たな森林の整備が進められ事となる。津山市では地球温暖化対策の推進がなされていたこともありバイオマスタウン構想策定に至った。

2 点目は、各施設中で民間施設もあるようだが、以前から津山市に存在した業者かについて伺った。県営施設を市に譲渡されたものや平成 12 年 5 月にオープンした施設、ベンチャー企業の誘致もある。新たに市が設置した施設もあるとのことである。

3 点目のバイオマスタウン構想に対する市民の反響・反応については、地球温暖化防止のため低炭素都市（CO₂ 排出量の少ない町づくり）を目指しており、カーボンオフセット事業の取り組みや環境基本計画を推進する団体もあり、環境啓発も行っている。このようなことから否定的な反響反応はない。また、市の中心部では電気自動車の普及にも力を注いでいる。

4 点目は、施設の設置場所の選定についてであるが、元々林業が盛んな地域（森林が集中している地域）で在るため何ら問題はなかったようである。

5 点目は、これまでの取り組みを通してのメリット・デメリットについて、デメリットについてはあまり感じてあるようには思えなかった。しかし、小学校におけるペレットストーブは、部屋が暖まりにくいなどの理由により不評であったようだ。

最後に今後の取り組みについてであるが、今後 20 年間における森林資源の推移から現在の間伐量を維持できれば、材積に大きな変化は見られないことから木質バイオマス発電プロジェクトを始め木質パウダーの製造・活用プロジェクトの取り組みを進めていくとの事であった。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

本市の取り組みは畜産を活用した発電や堆肥化などで、津山市とは異なるが、津山市のバイオスタウン構想は現時点では林業が盛んな事もあり、間伐材の活用に特化しているが、本市でも間伐材の活用は見逃せない事案であることは言うまでもない。設備やシステムは充実をしてきたが、将来に向けた展望に不安がある。津山市では現状を見る限り林業従者の確保はされているように思えた。本市が今後取り組むべき事は林業後継者を如何に育成していくかが課題であると考えている。